

001■1947年10月20日—1948年6月30日 昭和22~23 27~28歳

1947.10.20 ゴッホ君、永らく御無沙汰しているが如何、小生このころ朝晩めっきり寒くなったのと陽がみぢかいのとで絵がまったく描けない、それに日通の方が忙しいので絵に向けるエネルギーを日通に吸い取られてしまふのだ。せめて絵の描けないときはこうして君に手紙を書くことが楽しみの一つになっているのだよ。ゴッホ君小生は君を思ふ時一なにくそーと云ふ底力が下腹からむらむらと盛上がって来るよ。小生は君のような男を友人にもってこの上ない変な男だと思っている。昨日小生は日通から帰って来て早速ペン画を描いてこようと考へ頭の髪もすかず無精ひげもそのまま、くにくにくにゃの詰襟に高下駄をはいて出かけたのだ。その時女に出会った、女の視線と小生の視線がカチンコしたのだ、小生はあわてて顔をそらして通り過した。その女は戦時中小生と一緒に会社で机を並べていた女性で以前小生が血書のラブレターを出して失敗した女性なのだ。余り小生の恰好が貧弱だったのでまったく情けなかった。彼女は相変らず奇麗かった。小生を芸術家として認めて呉れるのは君だけだ。誰がなんと云おうと君だけが小生を訪ねて呉れるだけで小生は涙が出る程に嬉しいよ。ゴッホ君又新作が出来ているから又見に来て呉れ給え。十月二十日、智裕、ゴッホ兄

上前日記 1947-2020 上前智祐と具体 (2019年12月15日発行、中塚宏行編) より